

平成 17 年 3 月 22 日

定期検査中の福島第二原子力発電所 3 号機の
制御棒駆動機構ハウジング等における調査状況について

当所 3 号機（沸騰水型、定格出力 110 万キロワット）は、平成 16 年 12 月 2 日より第 13 回定期検査中ですが、平成 17 年 2 月 16 日から原子炉压力容器内底部の制御棒駆動機構ハウジング*¹スタブチューブ*²（全 185 本のうち 108 本）の溶接部および中性子計測ハウジング*³（全 55 本のうち 22 本）の溶接部について応力改善作業*⁴を実施していましたが、3 月 19 日終了いたしました。

この作業の過程で行った水中カメラによる目視点検の結果、制御棒駆動機構ハウジング 2 本にひびらしきものを確認しており、今後、詳細に調査することといたします。（2 月 23 日、3 月 10 日お知らせ済み）

また、3 月 19 日、中性子計測ハウジング 1 本に線状の模様が見えましたが、詳細に確認した結果、建設時当初よりあると思われる表面のみの線状の傷跡であると判断いたしました。

（添付「制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブ点検対象箇所図」参照）

今後、「制御棒駆動機構ハウジングのひびらしきもの」の調査結果と「中性子計測ハウジングの線状の傷跡」の評価結果をあわせてまとめ次第お知らせいたします。

以 上

* 1 : 制御棒駆動機構ハウジング

制御棒駆動機構が納められている筒

* 2 : スタブチューブ

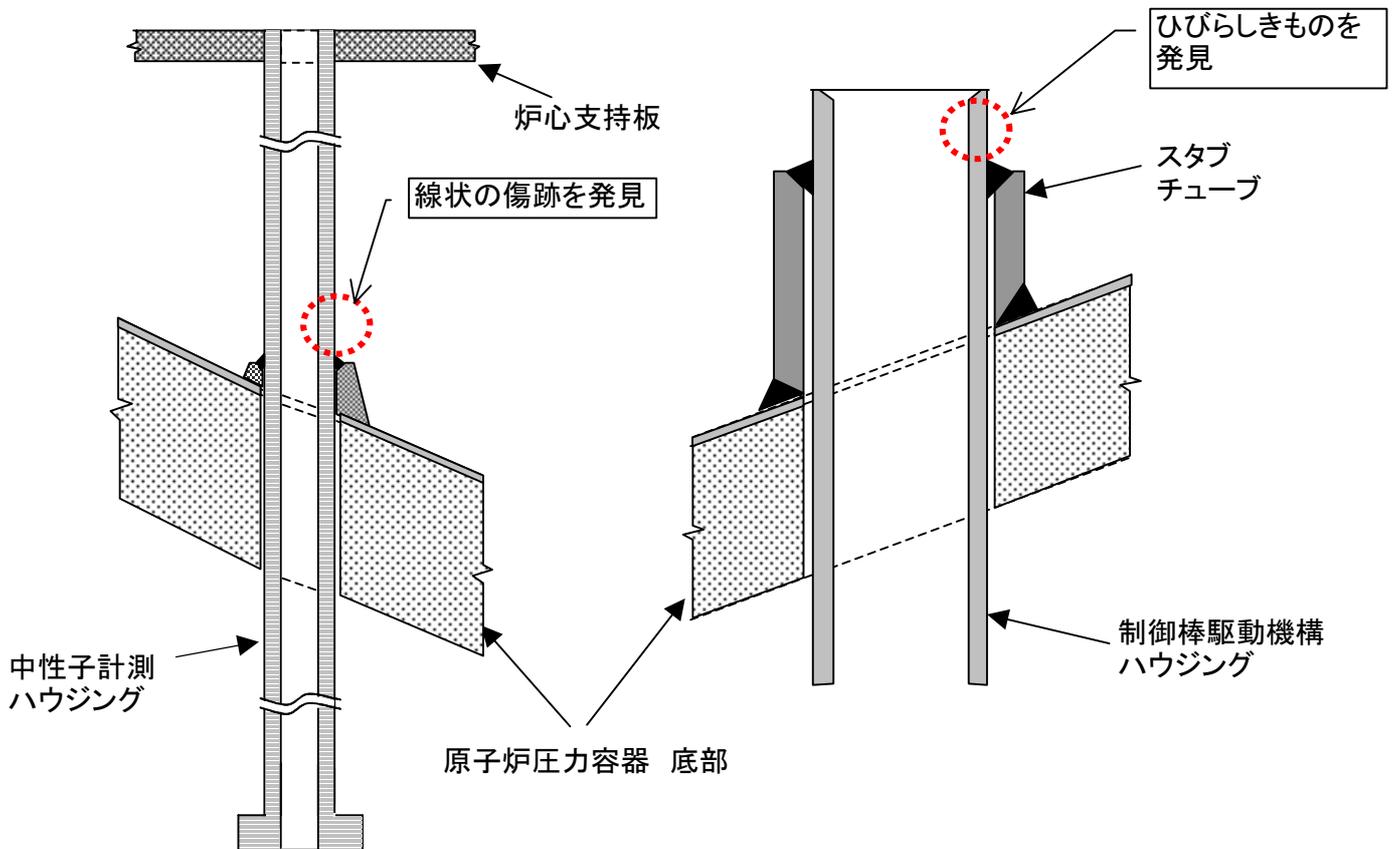
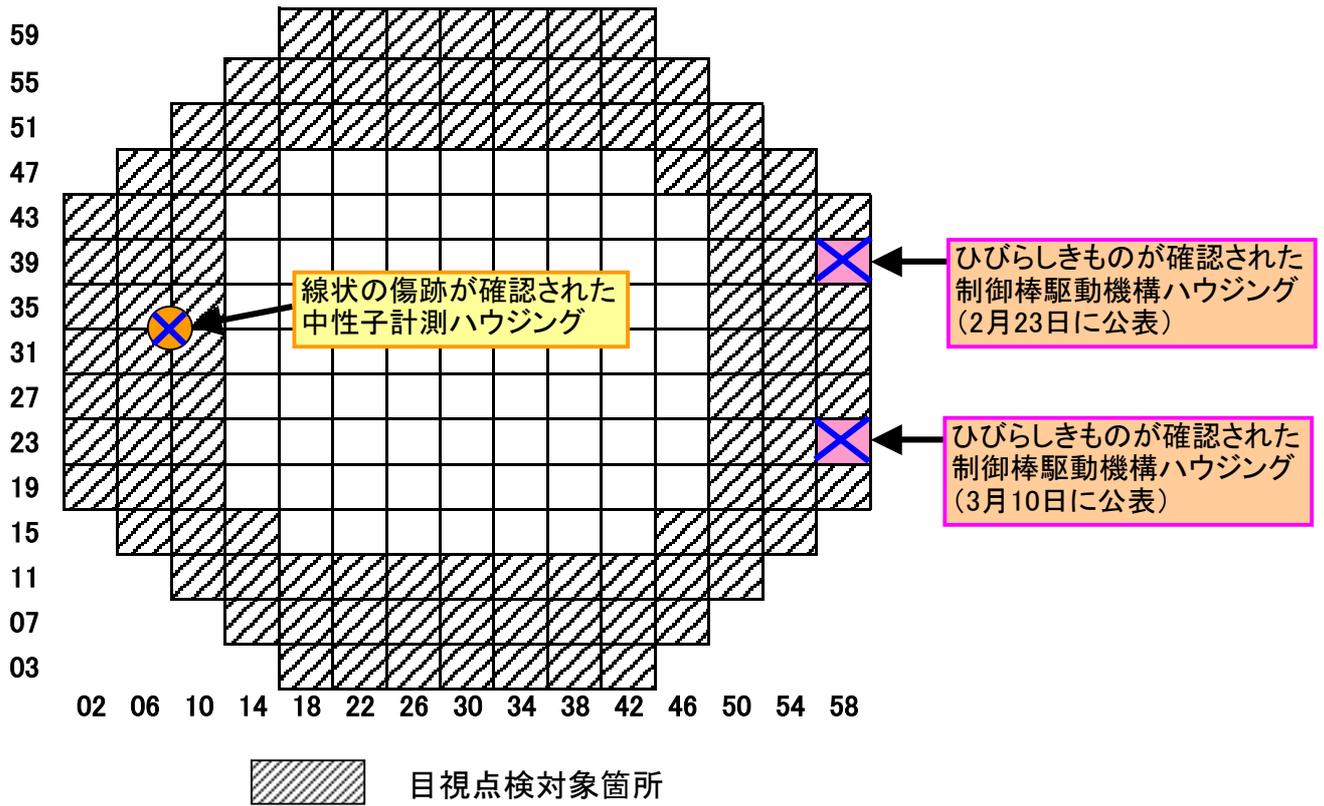
ハウジングを原子炉压力容器に固定するための継手

* 3 : 中性子計測ハウジング

原子炉内の中性子量を計測する装置が納められている筒

* 4 : 応力改善作業

制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブ溶接部および中性子計測ハウジングの応力腐食割れ予防保全の観点から、溶接部近傍に残っている応力（引張る力）を改善するための作業



制御棒駆動機構ハウジングスタブチューブ点検対象箇所図